

成熟期におけるタバコ葉の窒素化合物及び組織泳動蛋白の変化

小牟田 賢一郎

(日本専売公社 鹿児島たばこ試験場)

葉たばこの成分中、窒素化合物はその品質に大きな影響をもつ。摘心から収穫までのいわゆる成熟期はタバコ葉の素質を決定する大事な期間である。この期間における窒素化合物の変化を追及した。

試験方法および結果

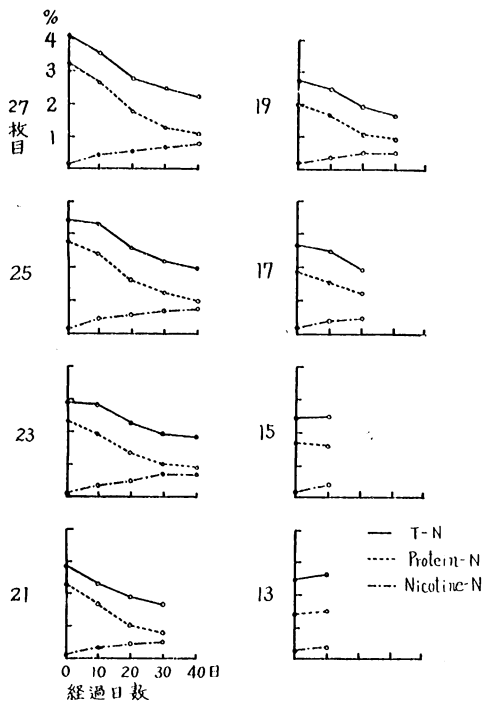
黄色種ブライトエローを標準栽培し 5月27日開花 4~5輪、全葉数29枚のものを選び、第1花枝とも2枚を摘芯した。摘芯後10日おきに1枚おきに葉を採取し、分析試料とした。

第1図は窒素化合物の変化を示す。全窒素および蛋白態窒素は全く同様な変化を示し、上位葉ほど高く又

成熟の進行とともに減少する。ニコチンははじめ下位葉の方が高いが逆転して上位葉の方が高くなる。

組織泳動蛋白の変化は第2図に示す。泳動距離によりA₀、A₁、A₂と3分割すると、A₀、A₁は大きな変化は示さない。特異的なのはA₂で葉の活性と密接な関係をもつものようであり、成熟期に大きく減少する。このA₂は同一時期でみると上位の葉ほど高く、下位になるにつれ著しく減少し、老化した葉では消滅する。同一着位葉についてみるとはじめ10日で急減し、その程度はA₂の多い上位葉ほど大である。以後の減少はゆるやかである。

第1図 N化合物の変化



第2図 組織蛋白の泳動図

